

平成29年11月29日 中部地区研究会

会場	川崎市立下河原小学校
参加人数	名
<p>《公開授業》</p> <p>1年2組「〇〇にのっていってみよう」(絵に表わす) 授業者 佐藤郁美先生</p> <p>5年1組「光のハーモニー」(造形遊び) 授業者 中島愛子先生</p> <p>《研究協議》</p> <p>○会場校挨拶</p> <p>図画工作地区研究の場を与えていただきありがとうございます。本日の公開に向け図画工作の研究に取り組むよい機会となりました。また事前に行われた図画工作科研究会の指導案検討も大変勉強になりました。「つくりだす喜び」をテーマに準備を進めてきた本日の授業、協議会で出された意見も参考に図画工作に関する学びを更に深めていきたいと思っております。本日はよろしくお願いたします。</p> <p>○研究会挨拶</p> <p>北部・中部・南部と3つの地域に分かれての提案となりました。本日の資料の最後に下河原小学校が大切にしていることなどの資料が載っています。図工だけにとどまらず、かつ日常的に取り組まれていることが伝わってきました。年末にかかる忙しい時期に授業を提案していただきありがとうございます。(下河原小学校が研究を進めているキャリア教育との関連も注目してみてください。)</p> <p>○研究協議</p> <p><1年2組「〇〇にのっていってみよう」(絵に表わす)></p> <p>(自評) 佐藤郁美先生より</p> <p>本日はありがとうございます。今日の一時間目にパネルシアターを行いました。小さい自分を使い、お話をつくりながら、また乗り物に対する想像が広がるような活動を展開しました。乗り物につけると本物の乗り物になってしまう「魔法の粉(ラメ入り)」の効果も想像以上にあったと思います。また「完成したらここに行きたい」という思いをもたせたい、そのために個別の聞き取りも行いながら準備を進めました。「にこちゃんの国」に行きたいという児童は、教員との対話と聞き取り時のメモをもとに、漠然としたイメージから「みんながここにこしている国」と具体的なイメージにつなげることができました。</p> <p>(宮前平小：野口先生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図工はイメージを広げていくこと、事前の耕しが大切と改めて感じた授業でした。魔法の粉の効果もすごくあったと思います。自分の思いをもって取り組んでいることが、キャリア教育とのつながりを感じさせる授業内容でした。 <p>(向ヶ丘小：白石先生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを描けない、イメージをもてない児童への支援の仕方。あるいは山を描けないなど具体的なものが描けない児童への支援の仕方を教えていただきたいのですが。また自分の大きさや乗り物の大きさもとてもよかったと思うのですが、切るときに指導されたことなどはあるのでしょうか。乗り物に乗っている自分のポーズもとてもよかったので、その時の指導に関してもお聞きしたいです。塗り込み方がとても丁寧。とても1年生とは思えない。思いを大切にしている。動物にしてもとてもよくできていて、また乗り物に乗っているポーズもよくできた。白い画用紙に白い雲、止まっていた児童、乗り物を動かし画面構成をじっくり考えていた児童、その児童に対する支援の仕方は。 <p>⇒自分や動物をかくとき、クレパスを使うときは「白いところ」がないように塗るように指導しています。そのことが自分や乗り物の丁寧な色塗りにつながったと感じています。具体的なものを描くときに支援したこととしては、学習室の先生がもっていた動物のカードを活用したり、学級文庫の本や図鑑なども参考にしたりする場面もありました。乗り物に乗っていることをイメージさせるために「乗り物に乗るときは足を開くよね」と声をかけました。そのことが乗り物に両足を挟むことにつながったと考えます。パネルシアターでも見せた作品(カンガルーに乗った男の子)も影響しているのでは。文字にし</p>	

てイメージが具体的になったり、読み聞かせが世界観を広げることにつながったりしていたと思います。山が描けない児童に対しての支援、火山のイメージをふくらませ恐竜なども登場する大昔の風景を再現したいとの思いを確認しました。イメージはもっていたが、色のアイデアが思いつかなかったようです。画面構成についての指導は「ここに置いたほうがいいですか？」との質問には様々な置き場所を提示し、比較できるように支援していきました。

(宮崎小：小野田先生)

乗り物・場所という2回、自由な発想を生かすことができる場面がある。乗り物か場所が決まるとどちらか一方も自然と決まってくるというよさがある。でも全く関連のない想像もできる。(エイと火山)活動の順序が想像を限定してしまう難しさもあると感じた。どのように工夫されたのか。

(上丸子小：高水先生)

1年生、気持ちを一緒に高めていく授業。どこを「自由」にとらえていたのか、乗り物なのか場所(世界)なのか。先生が大切にされた部分とは。

⇒乗り物を先に考えました。その上で場所を聞き取る際には乗り物に関連した場所をイメージする児童が多かったと思います。エイを描いた児童は、もともとエイが大好きな児童で、大昔の世界と思考はつながっていない。せっかく魔法の粉を使うのだから、普段行けない場所に行ってみようという声かけをしました。その中でも1名川崎駅に行ってしまった児童がいました。

<5年1組「光のハーモニー」(造形遊び)>

(自評) 中島愛子先生より

初めの指導案検討では図工室を宇宙空間に見立てて計画を立てていた。宇宙というイメージが世界観を限定してしまう可能性があること、自然と宇宙空間に見えてくることが大切と考え「宇宙空間」という言葉を外した。材料集めですが、ライトに関しては今回学校で購入し、100均も活用した。材料が子どもたちのイメージを限定しないよう、様々なものを準備した。

初めにセロファンを回転させる装置での作品を提示。イメージをもたせた。ライトに関しては光の強さが弱いものも。映す場所を工夫することで解決できることを伝えた。空間も意識できるよう声かけもした本時でした。

(末永小：石井先生)

・材料の豊富さ、光源の多さが子どもたちのイメージにつながっていたと感じます。光を壁や天井に映し出すことがとても効果的でした。その反面、オブジェ自体に光を当てるなどの作品もあってもよかったのではと感じたのですが。

⇒材料が豊富なため、私たちも試行錯誤し、教材研究を進めてきた。

並べてみると面白いという前時に対して、本時は鏡など活用したり壁や天井に映し出したりする活動が多くなったと感じている。

(富士見台小：田口先生)

・こうしてみたいがすぐ試せる活動がとてもよかったです。地区研だからできたのではなく、普段から教材がそろっている環境 想像を超えていた作品、場面はありましたか。

⇒全時はOHPがなかったのですが、強い光を試したいという児童からの声に答える形で準備をしました。ミラーシートに関しても、使い方に関しては自分が予想していた使い方以外にも活用している場面が

(宮前平小：野口先生)

・とてもきれいなお店のような空間ができていた。自信をもって活動し、道具の使い方も約束が徹底し安全上の配慮も十分でした。材料の追加も子どもたちの発想を広げていたと思います。友達の活動を真似る児童もたくさんいました。高学年として自信を持ちにくくなっている児童にとってはとてもよい活動になっていたのではないかと、また眠っているOHPの活用という点も注目すべきと思います。

⇒色が変わるライトは350円で購入できました。自分の好きな色で固定ができるという点でも優れた教材だと思います。他のライトに関しては全て100均で購入しました。他の題材でも活用していきたいと思います。

○指導講評

夏の暑い時期から指導案研究を進めてきました。その中で題材名の変更などもありました。実は光のハーモニーはサブタイトルでした。

1年

図画工作科研究会では構想図を大事にしています。その中でも実態を把握するという点に注目しています。1年生の実態としては、自信をもてない児童への支援が大切になってきます。思考が2つ（乗り物と場所）が分かれることも忘れてはいけません。子どもの立場としては、乗り物から決めていく方がイメージしやすい。発想を膨らませることも大切、逆の発想に関しても認めていくことが必要。ここでのキーワードは「とにかくなりきる」こと。自分の分身をつくり、色々な世界へ連れていくこと。想像を広げるための読み聞かせ。読み聞かせも感想を聞き取ることが大切。イメージを広げるキーワード。言語化することで思いを残すことができる。しかし得意不得意がるのも事実。上手と思うのは自分であって第三者であってはならない。なりきるための「魔法の粉」はとてもよかった。なりきりアイテムの「自分」「魔法の粉」「違う世界へ行く切符」。教師も楽しんでいる姿勢が子どもたちに伝わっている授業でした。

自分と乗り物を別に準備する効果。動かすことで時間の経過が作り出せる。画面構成に生かすことができる。失敗がない試行錯誤も可能。乗りたいものと自分を書き込まずに世界を描く。画面を飛び出してもいいのでは。

5年

造形遊び⇒材料体験とえる。高学年は材料の特徴を生かしていくことも大切。低学年での材料体験を経て、デザイン的にも特徴を生かした活動になっていなければならない。「とことん試す」ためには補助材料の存在も大切。OHPがまさにそう。処分するにはもったいない存在となった。光源の強さが作品に変化を与えた。お花紙を透かした児童「ほんのり色がついたね」おはじきも色の入り方にむらぎできていた。絵の具は？食紅やインク類の方がより光を通しやすい。食紅は混色も可能。それらの引き出しを持っているかどうか大事。Dさんの作品、OHPに行ったきっかけは、より強い光源を求めた結果だった。体育館のような広い空間だと他の材料に気づきにくくなるのでは。今日の図工室の広さがちょうどよかった。ミラーシートは反射させるだけでなく、自由に動かすことができることが大切。新しい作品ができたらずぐに命名させるのも大切。反射によって予想できないような場所（天井や関係のない壁）などに光が映し出されている時もある。まさに光のハーモニー。OHPが壊れていたことも面白かった。部品がなかったことで天井専用の光源となっていた。その偶然性も作品のバリエーションを広げていたのではないか。先生の造形ポケットが増えていることが今回の授業につながっていた。

どちらの授業も学級経営がしっかりとっていて、指示がしっかりと伝わっていた。またキャリア教育を推進している下河原小学校さんの特徴がよく出ていた授業でした。